

「おひさま」 撮影快調！

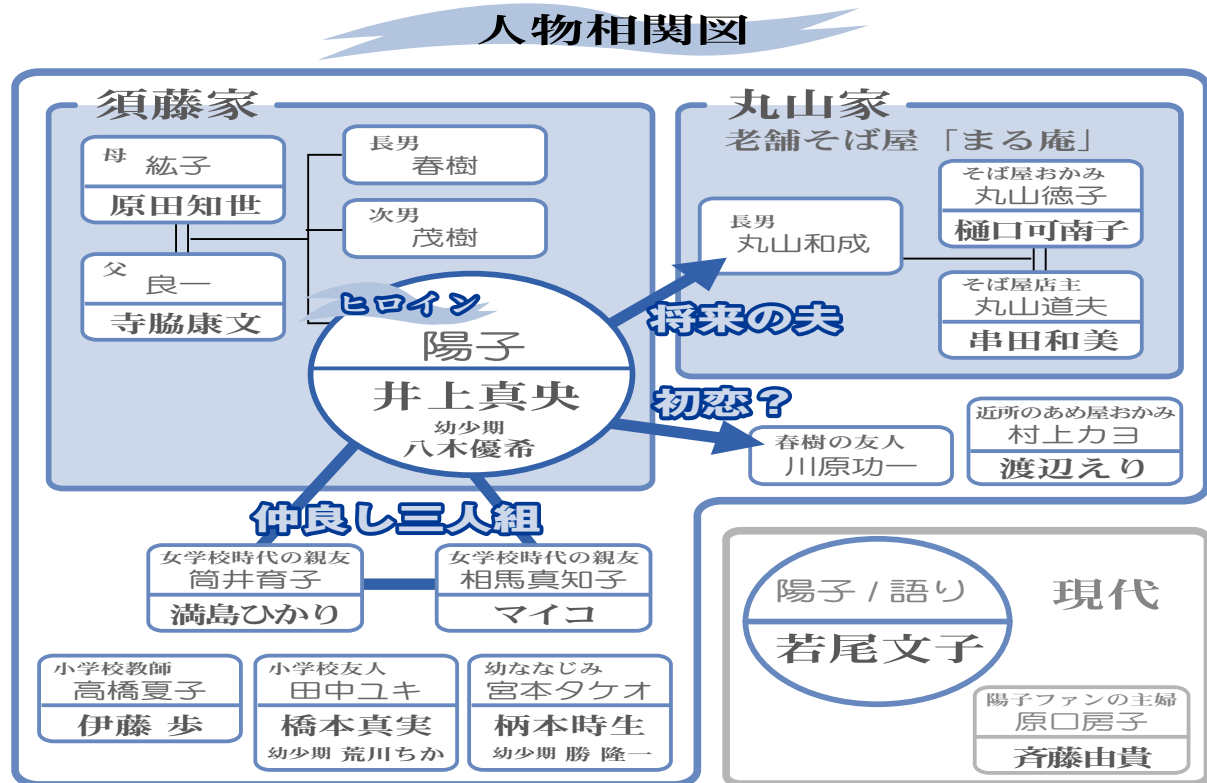
1次ロケが終了

来春から放送される連続テレビ小説「おひさま」。市内での撮影（1次ロケ）が行われ、10月24日には収録現場が報道陣に公開されました。

「おひさま」は、戦争をはさんだ昭和という激動の時代、人々をおひさまのように明るい希望で照らす女性の一代理記です。舞台は安曇野・松本で、信州そばが物語の重要な役割を果たします。

撮影は、緑あふれる安曇野を撮影するために例年より1カ月早いスタート。この日は、自転車で女学校に登校する主人公・須藤陽子（井上真央）が、畑仕事をする幼なじみ・タケオ（柄本時生）に声をかけるシーンなどが、堀金烏川の国営アルプスあづみの公園事業用地で収録されました。

収録後の記者会見で、小松昌代チーフプロデューサーは、「これまでに多（く）



「おひさま」の主な共演者は上図のとおり。詳しくはNHKホームページでもご覧いただけます。

皆さんの気持ちを
いただきながら、
話をつくっています。



市民エキストラから出演者の2人に花束を贈呈



ロケの状況を説明する小松チーフプロデューサー

くの地元の皆さんとお会いすることができました。いろいろな形、いろいろな時代を生きてきた皆さんの気持ちをいただきながら話をつくっています。あたたかな気持ちや自然に包まれると穏やかな気持ちになり、静かなるエネルギーをいただいていることを実感します。そんなことが画面に出せれば」と、安曇野での撮影に手応えを感じている様子でした。

県内のロケはこの翌日であったん終了。11月から都内でのスタジオ収録が行われ、来年には再度、安曇野で撮影が行われる予定です。

市民エキストラが活躍

今回のロケでは、多くの地元の皆さんがエキストラとして出演しました。主人公・陽子の幼少時代の一場面を撮影したシーンには、公募による申込者のほか、演技が必要とするシーンでは、「あづみのアクターズアカデミア（河崎義祐塾長）」の塾生がレッスンの成果を発揮。また、市内の保育園児13人は、戦前の時代背景に合わせて髪型を丸刈りやおかっぱにするなどして撮影



主人公・陽子の幼少時代のワンシーンに参加した市民エキストラの皆さん。10月15日、穂高有明の撮影地にて。

に協力しました。エキストラのひとり、藤澤アシュリ（美月ちゃん（5・穂高有明）の祖母・千代さんは、「本人は緊張していたようですが、よくがんばったと思います。番組を通じて、安曇野の自然を多くの皆さんに知っていただきたい」と来春の放送に期待を寄せています。